

ゾレア®の治療を受ける
患者さんにご家族の方へ

は じ め て の

ゾレア®

気管支喘息

監修

国立病院機構 福岡病院名誉院長
西間 三馨 先生

ゾレアは、こう アイジーイー こう たい「抗IgE抗体」というお薬です。

ゾレアはぜんそくの治療に使われるこうアイジーイーこう たい「抗IgE抗体」というお薬で、
ぜんそくの炎症の元であるアレルギー反応を
おさえる作用があります。

ノバルティス ファーマ 株式会社

どうしてぜんそく症状がおきるのか？

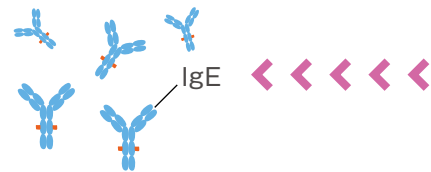
ぜんそくでは、炎症によって気道（空気の通り道）が狭くなり、さまざまな症状がおこります。
その炎症をおこす原因にアレルギー反応があります。

アレルギー反応 → 気道の炎症 → ぜんそく症状

抗原が体のなかに侵入する



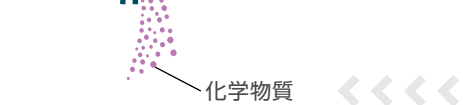
抗原にくっつく性質をもつ抗体（IgE）が作られる



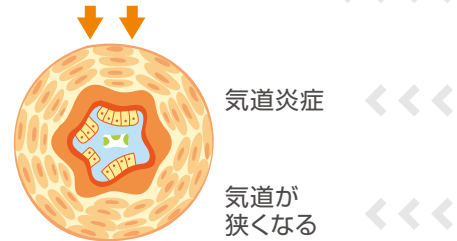
抗原と抗体（IgE）が、炎症にかかわる細胞の1つであるマスト細胞にくっつく



マスト細胞から、気道に炎症をおこす化学物質（ロイコトリエン、ヒスタミンなど）が出てくる（アレルギー反応）

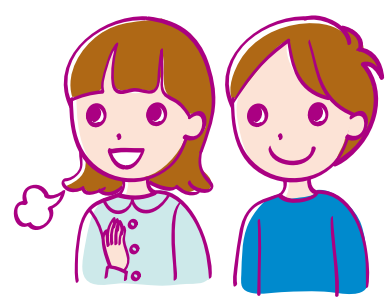


気道に炎症がおき、気道が狭くなり、ぜんそく症状がおこる



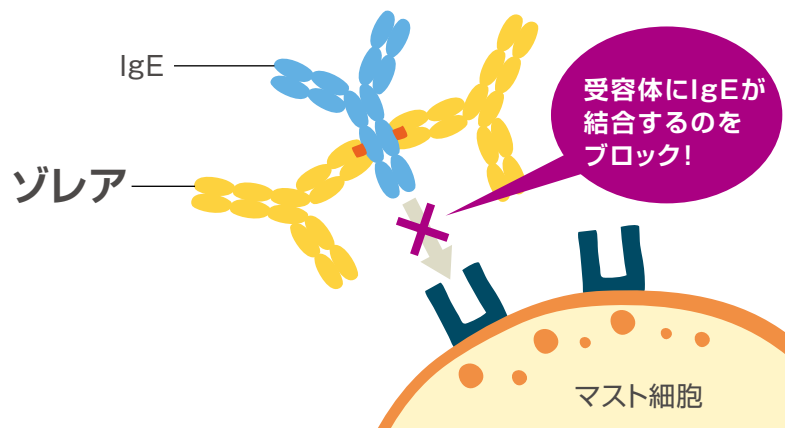
ぜんそく症状をコントロールするには…

ゾレアは
炎症の原因であるアレルギー反応の
元をおさえます。



イメージ図

ゾレアはIgEと結合して、
IgEがマスト細胞と結合できなくすることで、
アレルギー反応 = 炎症をその元からおさえます。



そのほかのお薬



ロイコトリエン受容体拮抗薬など
じゅうようたいまっこうやく
炎症をおこす化学物質のはたらきをおさえます。



抗炎症薬(ステロイド薬など)
炎症をおさえます。

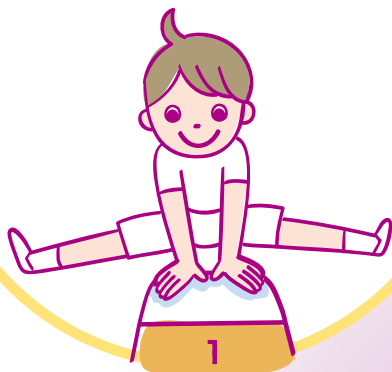


長時間作用性抗コリン薬
気道が狭くなるのを防ぎます。

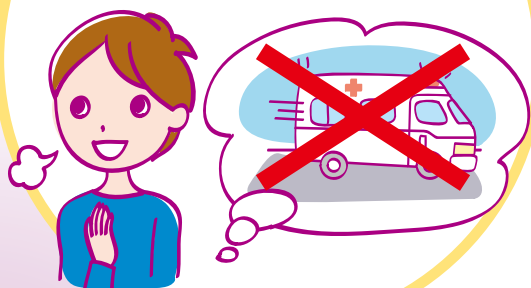
気管支拡張薬(β₂刺激薬など)
しげきやく
狭くなった気道を広げます。

今までのお薬を使っても残っている症状をコントロールして、
元気な毎日をおくることを目指します。

運動会に出て
かつやくする



発作で急に
病院に行くことが
なくなる



いつもの毎日

朝までぐっすり
ねむれる



好きなスポーツが
できる



たのしい毎日

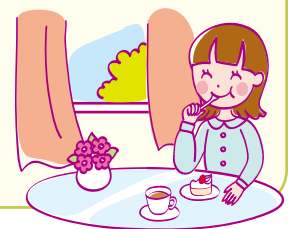
発作で学校を
休むことがなくなる



季節の変わりめに
発作がおこらない



症状がコントロールできたら、こんなことがしたい





ゾレアによる治療を受けるには…

ゾレアによる治療を受けることができるのは、次のような方です。

治療の前にいくつかの検査が必要です。

- 高用量の吸入ステロイド薬に加えて、複数のぜんそくのお薬を使っている

お薬の名前

- 症状がコントロールできない（下記のいずれか）

- ・ 毎日ぜんそく症状がある
- ・ 週1回以上、夜間症状がある
- ・ 週1回以上、日常生活に影響がある

そのほかの症状：

- 血清中総IgE濃度が30～1,500 IU/mLの範囲にある

IgE 値：

- アレルギーがある

ハウスダスト、ダニなどに対してアレルギー反応がある

抗原：

- 体重が20～150kgの範囲にある

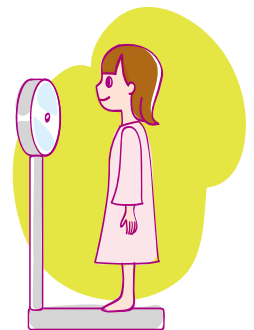
測定値：

- 月に1～2回通院できる

あなたのゾレア投与量は

_____ 週間に1回、_____ mg です。

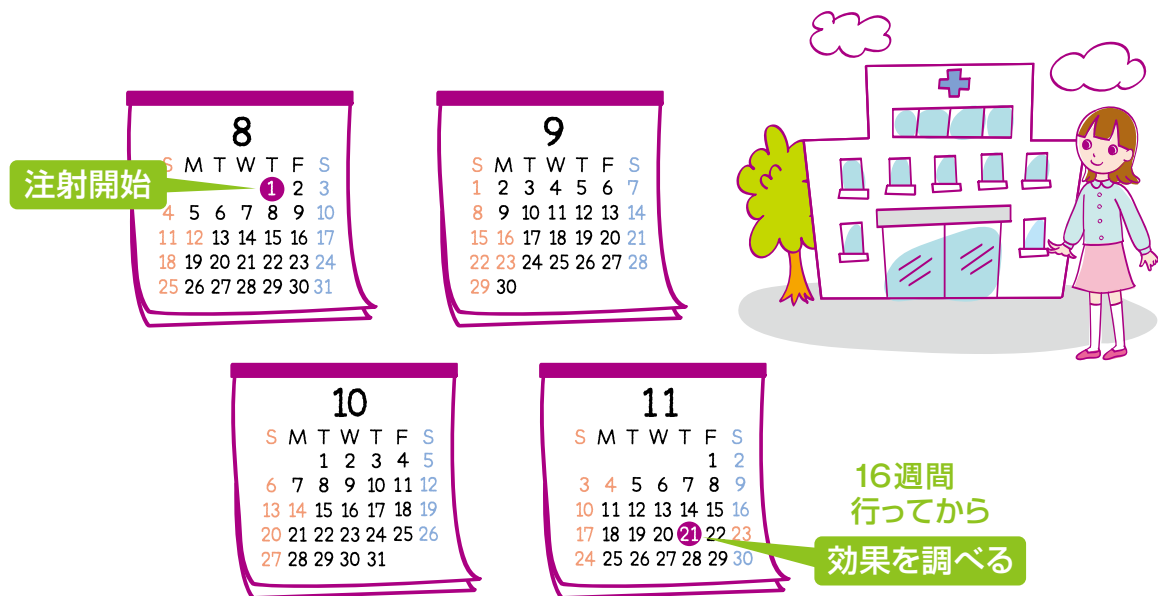
来院した際に _____ 回、注射します。



ゾレアは、月に1～2回病院で注射をします。 まず16週間行ってから、治療の効果を調べます。

ゾレアは、1回75mg～600mgを2週間または4週間ごとに病院で注射をするお薬です。

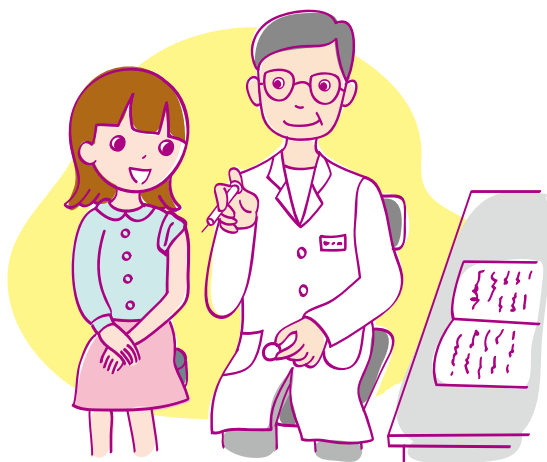
ふつうは16週間(4回または8回注射)行い、そこで効果があったかどうかを調べて、治療を続けるか決めます。治療中はほかのぜんそくのお薬を勝手に減らしたり、やめたりしないでください。



ゾレアは主治医の判断の下、患者さんご自身またはご家族が注射を行う「自己注射」の選択も可能です。

ゾレアの注射の量と注射の間隔は、体重と血液中のIgE抗体の量によって決まるので、患者さんごとに異なります。

成長に伴う^{こもは}体重増加によって、投与量や投与間隔が変更になる場合があります。





ゾレアの主な副作用と注意が必要な症状

主な副作用は、
注射した場所の赤みや腫れです。



赤くなる



かゆくなる



腫れる



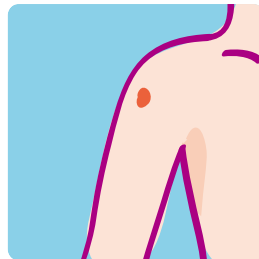
痛い



熱くなる



かたくなる



血が出る

ゾレアの投与で予想される主な副作用は、注射部位の反応です。
国内の臨床試験*でもっとも多くみられた副作用は、注射した場所が赤くなったり、腫れたりする症状でした。

*臨床試験：新しい薬をつくる時に患者さんに参加してもらって薬の効果や副作用を調べること。

ゾレアを注射した後は、 次の症状に注意してください。

- 気管支のけいれん
(のどがくるしくなる)
- 呼吸困難
(息がくるしい)
- 血圧低下
(ふらふらする、気分が悪い)
- 失神
(気を失う)
- たちくらみ
(くらくらする)
- 蕁麻疹
(体にブツブツができる)
- 全身のかゆみ
- くちびる、舌、のどの奥の腫れ
- 下痢
(お腹の痛み)
- 発熱
- 頭痛



呼吸困難



たちくらみ

このような症状が起こった場合、「アナフィラキシー」の可能性がります。アナフィラキシーとは、全身にわたって生じるアレルギー反応で、急に起こり、命を危険にさらすことがあります。ゾレアを注射した後の注意に関しては、主治医や看護師の話をよく聞いてください。

いつもと違うと思ったら、
すぐ家族や周りの人に伝えてください。



ゾレア 注射ノート 注射をした日付と、気がついたことを書こう

はじめの週

月 日 ()

メモ

2週目

月 日 ()

メモ

体の調子はどうですか？ まえとくらべて変わった感じがありますか？

4週目

月 日 ()

メモ

6週目

月 日 ()

メモ

8週目

月 日 ()

メモ

10週目

月 日 ()

メモ

12週目

月 日 ()

メモ

14週目

月 日 ()

メモ

16週目

月 日 ()

メモ

まずここまできたら、
主治医と治療の効果を話しあい
ゾレアを続けるか相談します。

ゾレアはアレルギーが原因でおこる ぜんそくのお子さんの治療薬です。

ゾレアはぜんそくの治療に用いられる「抗IgE抗体」というお薬です。
ぜんそくの炎症の源流であるアレルギー反応を抑制する作用があります。

主な副作用

主な副作用は、注射部位の赤みや腫れです。

- 赤くなる
- かゆくなる
- 腫れる
- 痛い
- 熱くなる
- 硬くなる
- 出血する

ゾレアの投与で予想される主な副作用は、注射部位の反応です。国内の臨床試験でもっとも多くみられた副作用は、注射した場所が赤くなったり、腫れたりする症状でした。

投与後の注意

ゾレアの投与後は、以下の症状に注意してください。

- 気管支のけいれん
- 呼吸困難
- 血圧低下
- 失神
- たちくらみ
- 蕁麻疹
- 全身のかゆみ
- くちびる、舌、のどの奥の腫れ

このような症状が発現した場合、「アナフィラキシー」の可能性があり、全身にわたって生じるアレルギー反応により症状が急激に発症し、重篤な場合は生命をおびやかす危険がまれにあります。ゾレア投与後の注意に関しては、主治医や看護師の指導にしたがってください。

思い当たる症状があらわれた場合は、速やかに主治医や医療機関にご連絡ください。



MEMO





MEMO





MEMO



主治医にゾレアについて紹介を受けた患者さん、ゾレア投与中の患者さんのための
重症アレルギー性ぜんそくのウェブサイト

ゾレア® で

あなたに合ったぜんそくコントロールを

<https://www.okusuri.novartis.co.jp/xolair/asthma>



病医院名・連絡先：